



# 第三次中期経営計画 (2014~2016年度)

設立10周年の節目に向けて  
変革への挑戦、そして未来へ

特種東海製紙株式会社



# 目次

■	前中期経営計画の総括	● ● ●	3
	前中期経営計画の基本方針と実施施策／連結業績推移		
■	中期経営計画の概要	● ● ●	7
	1. 第三次中期経営計画の位置付け	● ● ●	8
	2. 当社グループを取り巻く事業環境	● ● ●	9
	3. テーマおよび重点項目	● ● ●	10
	4. 連結業績目標	● ● ●	11
	(1)売上高／(2)経常利益		
	5. 重点項目別施策	● ● ●	13
	(1)新商品の開発／(2)新規分野への進出／(3)海外展開／		
	(4)他社・他産業との部分提携／(5)基盤事業の構造改革		
	6. 資金計画	● ● ●	16
	7. 借入金残高の推移	● ● ●	17
■	参考資料	● ● ●	18
	・NaSFA	● ● ●	19
	・売電事業への進出	● ● ●	24
	・リニア中央新幹線事業に関連した社有林の有効活用	● ● ●	25
	・海外での商品開発	● ● ●	26
	・新ボイラーの建設とRPF事業の拡大	● ● ●	27

# 前中期経営計画の総括 (2011～2013年度)

深化。そして、進化。



# 前中期経営計画の基本方針と実施施策

## 『深化（基盤強化施策）』

### 1. 販売力の強化

- ◆ 主要取引先である株式会社竹尾の株式を追加取得し持分法適用関連会社へ
- ◆ ペーパータオル流通経路を短縮化
- ◆ 新ペーパータオル用キャビネットがグッドデザイン賞を受賞
- ◆ 東京本社および各工場敷地内に「P a m」を開設

### 2. 製造力の強化

- ◆ 品質やエネルギー効率の向上のため、島田工場のパルプ設備活性化投資を決定
- ◆ エネルギーコストの削減と環境保護を目的として三島工場にR P F /木質チップボイラーを建設
- ◆ 塗工品質の向上を目的としてコーターヘッドを増設

### 3. 事業設計の見直し

- ◆ 赤松水力発電所を更新し、F I Tを利用した売電事業への進出を決定
- ◆ 東海加工紙株がクリーン度の高い新ラミネート工場を建設
- ◆ タオルマシンのS & B（島田工場への移設）を決定
- ◆ 主に島田工場における思い切った減損会計の適用と固定資産除却損の計上（合計約40億円）
- ◆ 自己株式1,600万株（発行済み株式総数の約10%）の取得

# 前中期経営計画の基本方針と実施施策

## 『進化（成長戦略）』

### 1. 新製品の開発と販売

- ◆ NaSFAに基づいた新製品の開発  
(フィブリック、TT-除染シート、技術融合型ファンシー、かぐや など)
- ◆ ウォーター事業への進出

### 2. 他社・他産業との部分的連携

- ◆ 基盤事業の強化などを目的とした大王製紙株式会社との資本提携
- ◆ 主要取引先である株式会社トーモクへの当社100%子会社である大一コンテナ(株)の株式の譲渡（発行済み株式の70%）及び株式会社トーモクとの連携の強化
- ◆ 新たにRPF工場を取得（現株レックス沼津工場）

### 3. 海外展開

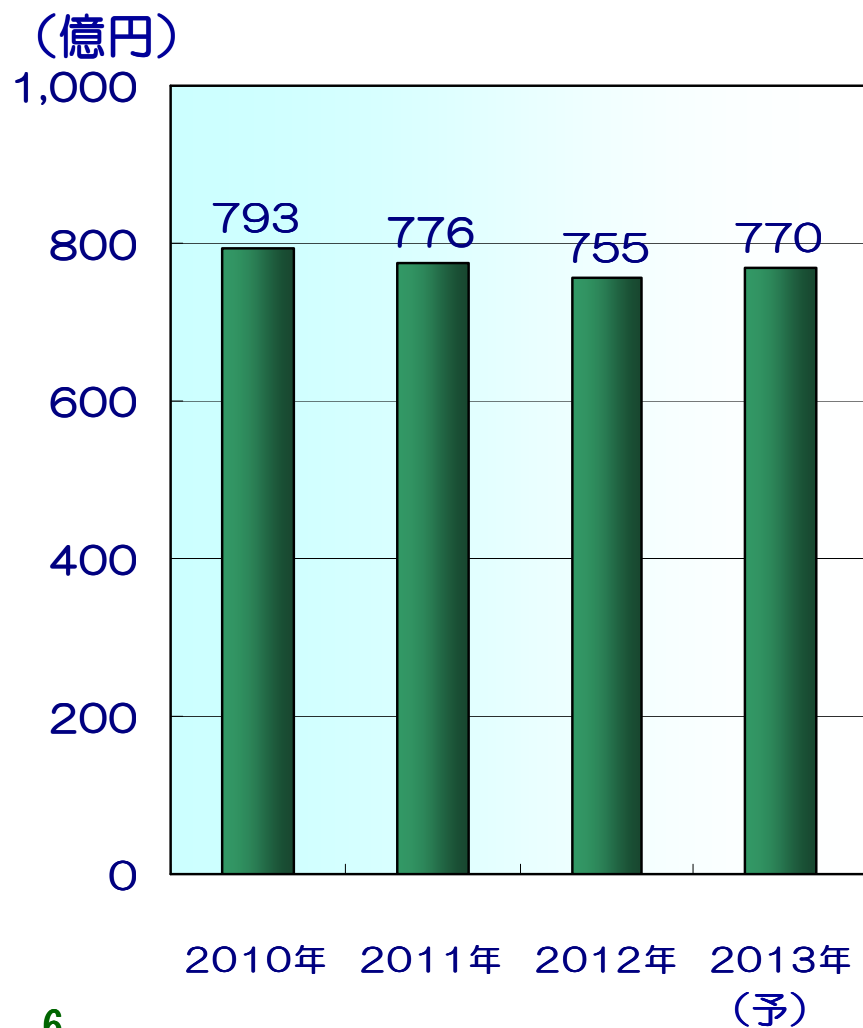
- ◆ 台湾の中日特種紙廠股份有限公司へ出資し、薄物高付加価値機能紙を開発
- ◆ 台湾の正隆股份有限公司の大型設備と当社の技術・ノウハウを活かした共同開発を開始
- ◆ 東海加工紙(株)が香港に福蓬萊有限公司を設立し、紙加工品の販売を開始

### 4. 環境事業の推進

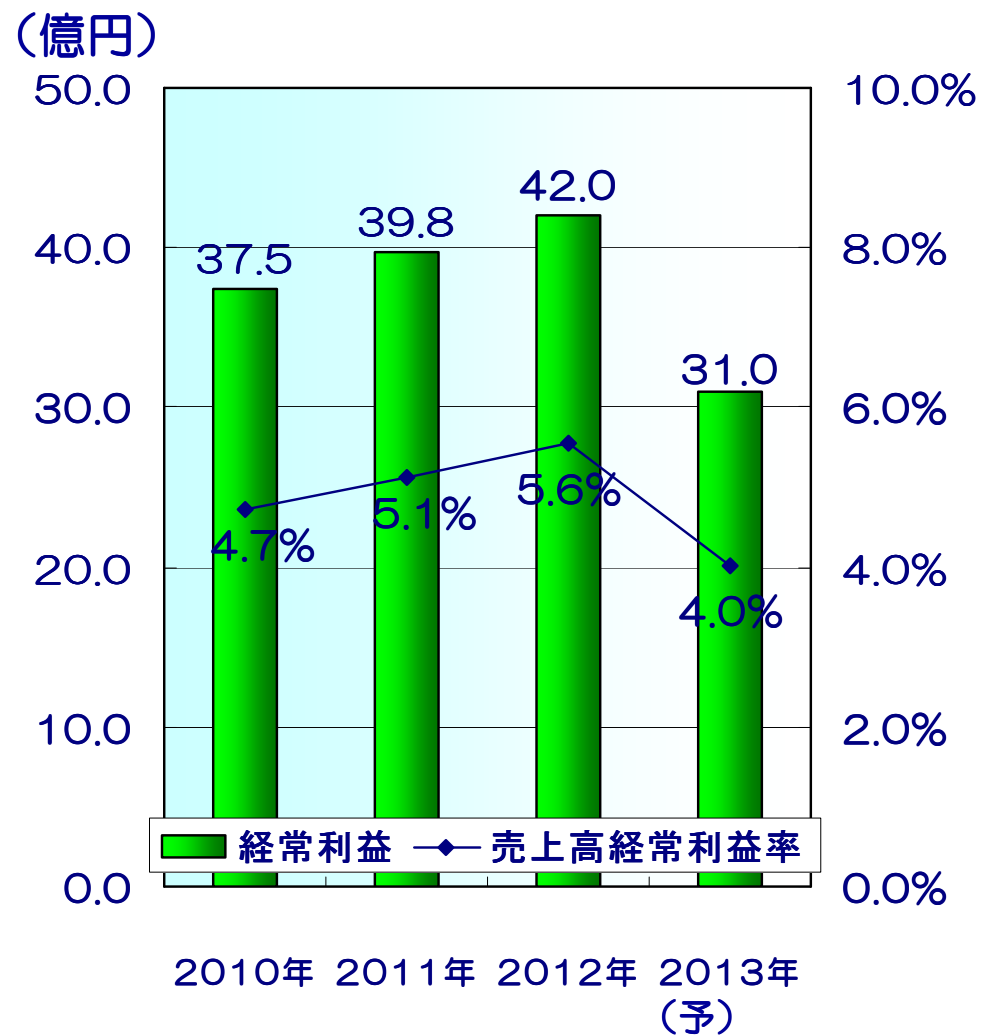
- ◆ 井川山林内の採水地を利用したミネラルウォーター事業への参入に向けた取組みを開始

# 連結業績推移

## 【売上高】



## 【経常利益】



# 中期経営計画の概要 (2014～2016年度)

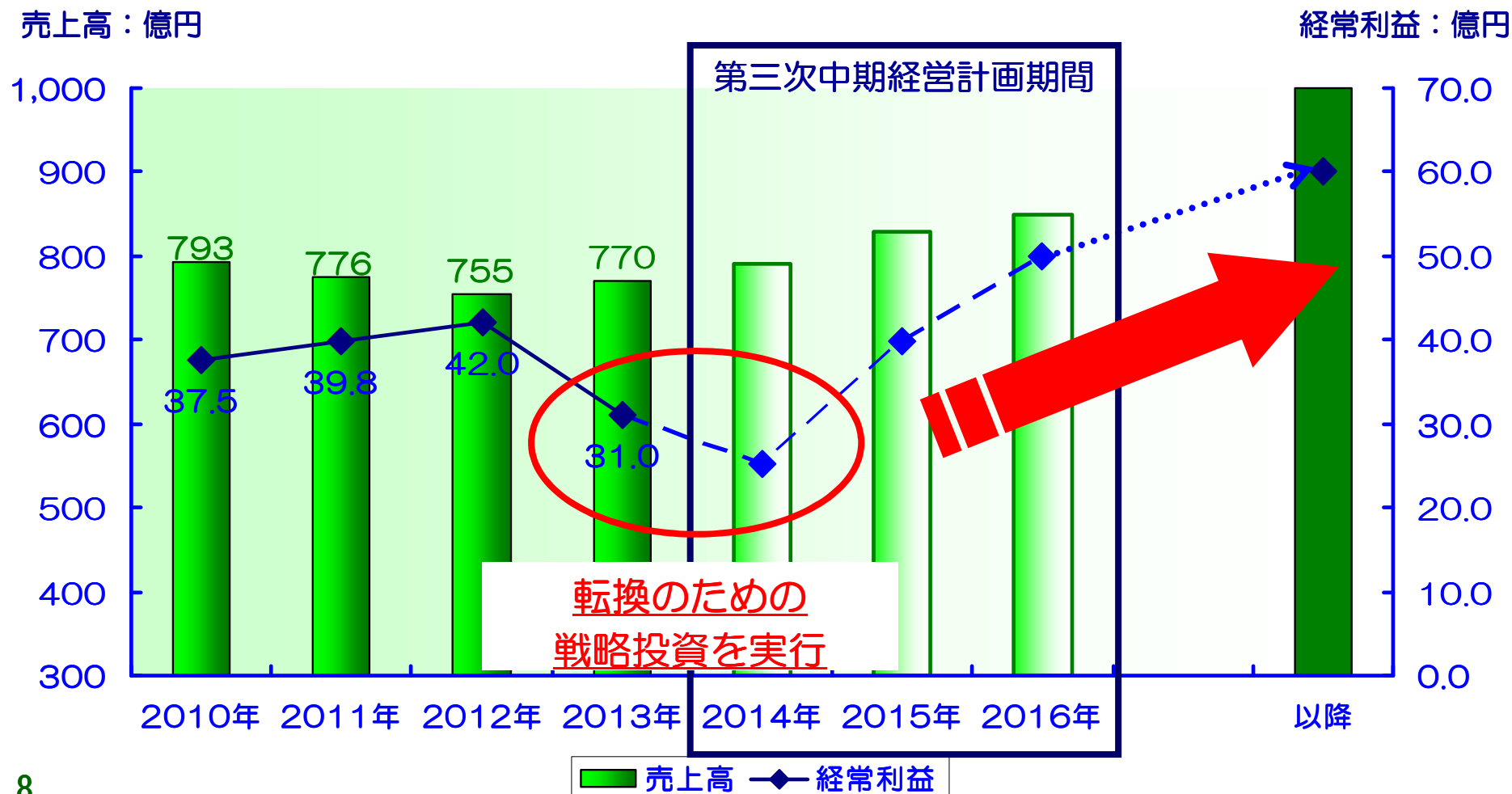
設立10周年の節目に向けて  
変革への挑戦、そして未来へ



# 1. 第三次中期経営計画の位置付け

これまでの成長戦略投資を確実に回収しつつ、

次期中期経営計画での飛躍に向けた転換期





## 2. 当社グループを取り巻く事業環境

### 製紙業界

- ◆ 板紙分野における一貫化の進行
- ◆ 新マシンおよびS & Bによる供給能力の増加
- ◆ 需要減によるマシン稼働率の低下や価格競争の激化
- ◆ 海外への進出および海外企業のM & Aの増加
- ◆ 企業淘汰・業界再編機運の高揚

### 特種東海製紙

- ◆ 一部銘柄への収益依存度の集中
- ◆ 機能紙における従来手法の手詰まり感
- ◆ UKP設備の保有
- ◆ 高い自己資本比率と資金調達力
- ◆ 除塵技術、偽造防止技術、染色技術、エンボス技術などの技術優位性

### サプライヤー

- ◆ 原燃料価格の上昇懸念
- ◆ 古紙およびチップの発生量の減少懸念
- ◆ 古紙の国際商品化

### 新規参入

- ◆ 安価な海外品の流入

### 代理店、ユーザー

- ◆ 国内市場の成熟化
- ◆ コスト・品質・提案力競争の激化
- ◆ ファンシー市場の縮小傾向
- ◆ 高級印刷用紙の一般紙化
- ◆ 開発案件等の引合い情報の質・量の低下

### 3. テーマおよび重点項目

#### 《中期経営計画》

テーマ 『 変革への挑戦、そして未来へ 』

#### 《重点項目》

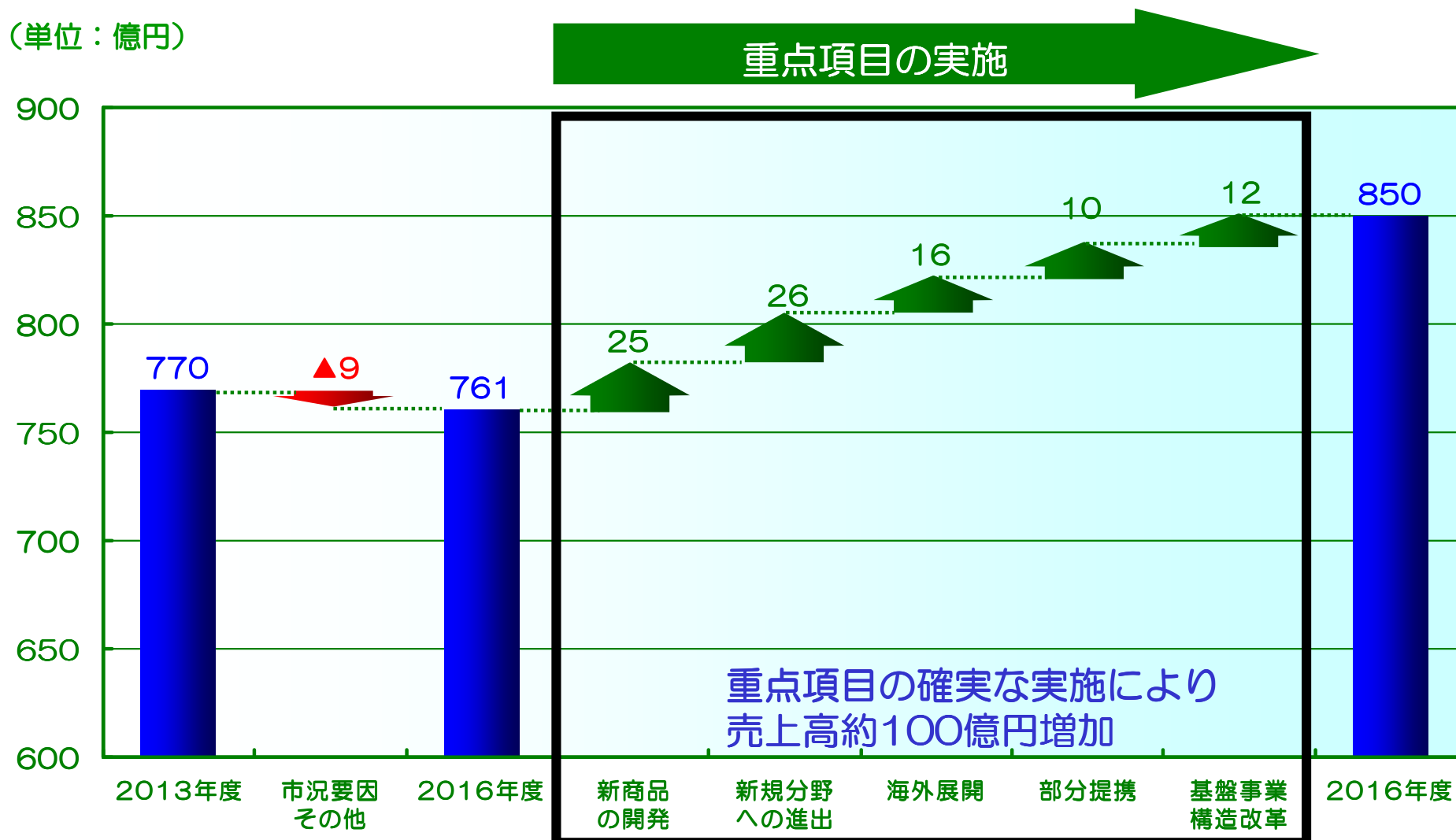
1. 新商品の開発
2. 新規分野への進出
3. 海外展開
4. 他社・他産業との部分提携
5. 基盤事業の構造改革

『 売上高850億円 経常利益50億円 』の達成  
次期中期経営計画に向けた更なる業績向上のための基盤形成

## 4. 連結業績目標

### 『 (1) 売上高 』

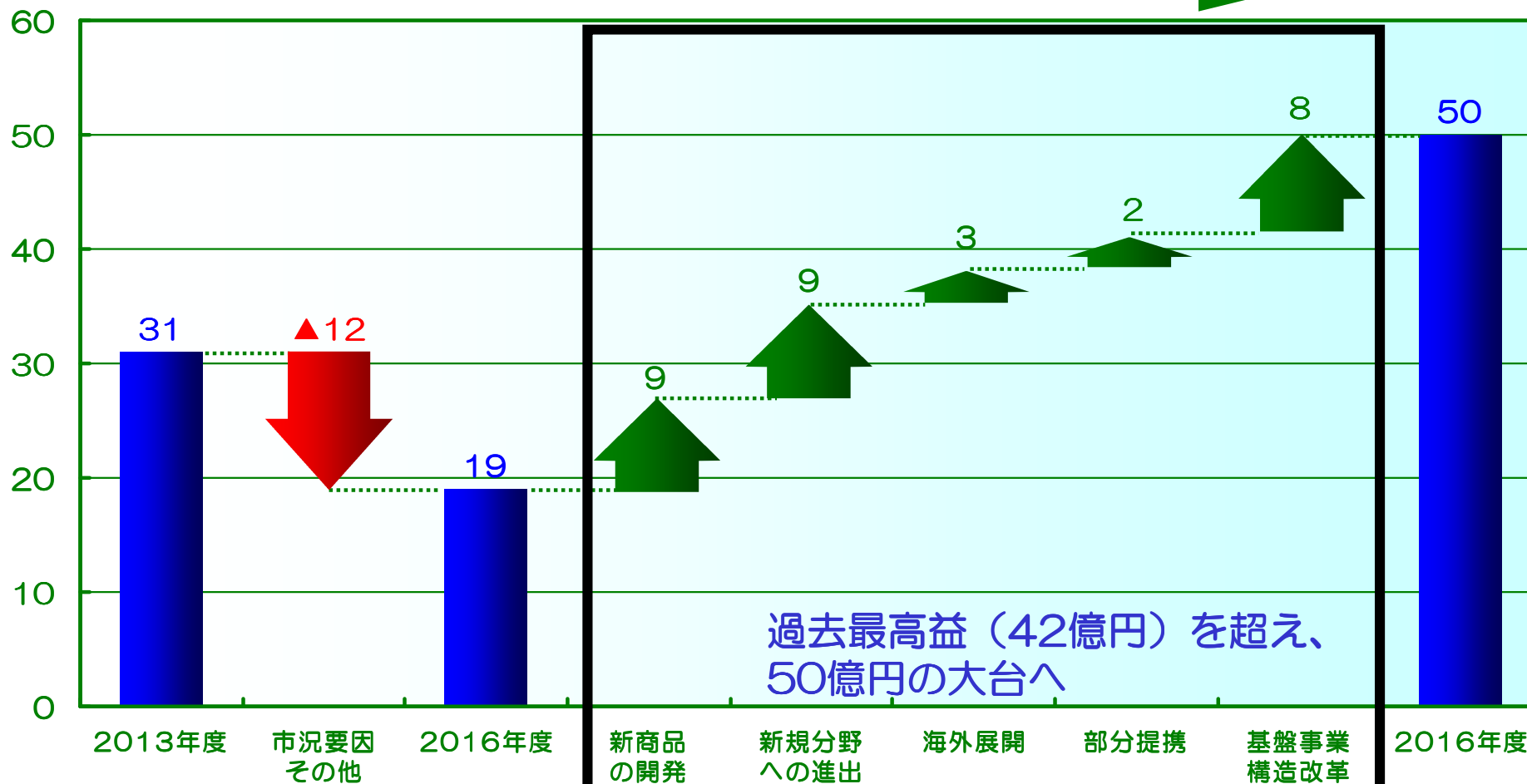
(単位：億円)



## 4. 連結業績目標

### 『 (2) 経常利益 』

(単位：億円)



## 5. 重点項目別施策

### 『 (1) 新商品の開発 』

- ◆ 島田工場の特徴であるクラフトパルプ設備を活かした商品開発
- ◆ 増設するコーターヘッドの活用と低密度化技術の応用
- ◆ 産学連携による黒透かし技術の共同開発
- ◆ 産業素材事業、特殊素材事業、生活商品事業、グループ各社の多彩な技術の融合
- ◆ タオル新マシン建設に伴うニュータウパーの開発《東海加工紙㈱》
- ◆ 食品・建材用ラミネート製品の開発《東海加工紙㈱》

### 『 (2) 新規分野への進出 』

- ◆ 赤松水力発電所の更新とF I Tを利用した売電事業への進出
- ◆ リニア中央新幹線工事に関連した社有林の有効活用
  - ・ 工事用地の貸与
  - ・ 工事関連施設を有効活用した観光事業の強化および新規事業の検討 など
- ◆ 紙の領域を超えたシート状物質の開発
- ◆ フィブリック（リチウムイオン二次電池用セパレータ）の事業化および付帯技術の製紙分野への応用

## 5. 重点項目別施策

### 『 (3) 海外展開 』

- ◆ 中日特種紙廠股份有限公司との価格競争力のある薄物機能紙やファンシーの開発・販売
- ◆ 正隆股份有限公司との大型抄紙機を活用した市場規模の大きい機能紙の開発・販売
- ◆ 商社・代理店と共同での市場調査・販促活動
- ◆ 福蓬萊有限公司によるペット用品の海外販売《東海加工紙株》

### 『 (4) 他社・他産業との部分提携 』

- ◆ 大王製紙株式会社との間での資本・業務提携
  - ・ 輸送コストを考慮した相互協力体制構築
  - ・ 超薄型吸収シートの共同開発
  - ・ トイレットペーパーOEM供給の拡充《明治製紙株》
- ◆ 他社との提携によるRPF事業の拡大
- ◆ シート化技術習得を目的とした大学や企業との連携・提携

## 5. 重点項目別施策

### 『 (5) 基盤事業の構造改革 』

#### 【産業素材事業グループ】

- ◆ パルプ設備（3K）活性化投資による省エネルギー化および品質向上
- ◆ 新バイオマスボイラーの建設によるエネルギーコスト低減
- ◆ 古紙化の推進によるコストダウン

#### 【特殊素材事業グループ】

- ◆ 小ロット化生産体制の強化
- ◆ 顧客により近い販売およびサービス体制の構築

#### 【生活商品事業グループ】

- ◆ 生産能力拡大と低廉原料対応設備の導入《明治製紙株》
- ◆ 工場レイアウト改善と富士市（静岡県）でNo.1の綺麗な工場達成《明治製紙株》

## 6. 資金計画

第三次中期経営計画期間  
2014年度～2016年度

第三次中期経営計画最終年度  
2016年度

単位：億円

### 〔資金使途〕

- 投資額 350億円
- 株主還元

### 〔資金調達〕

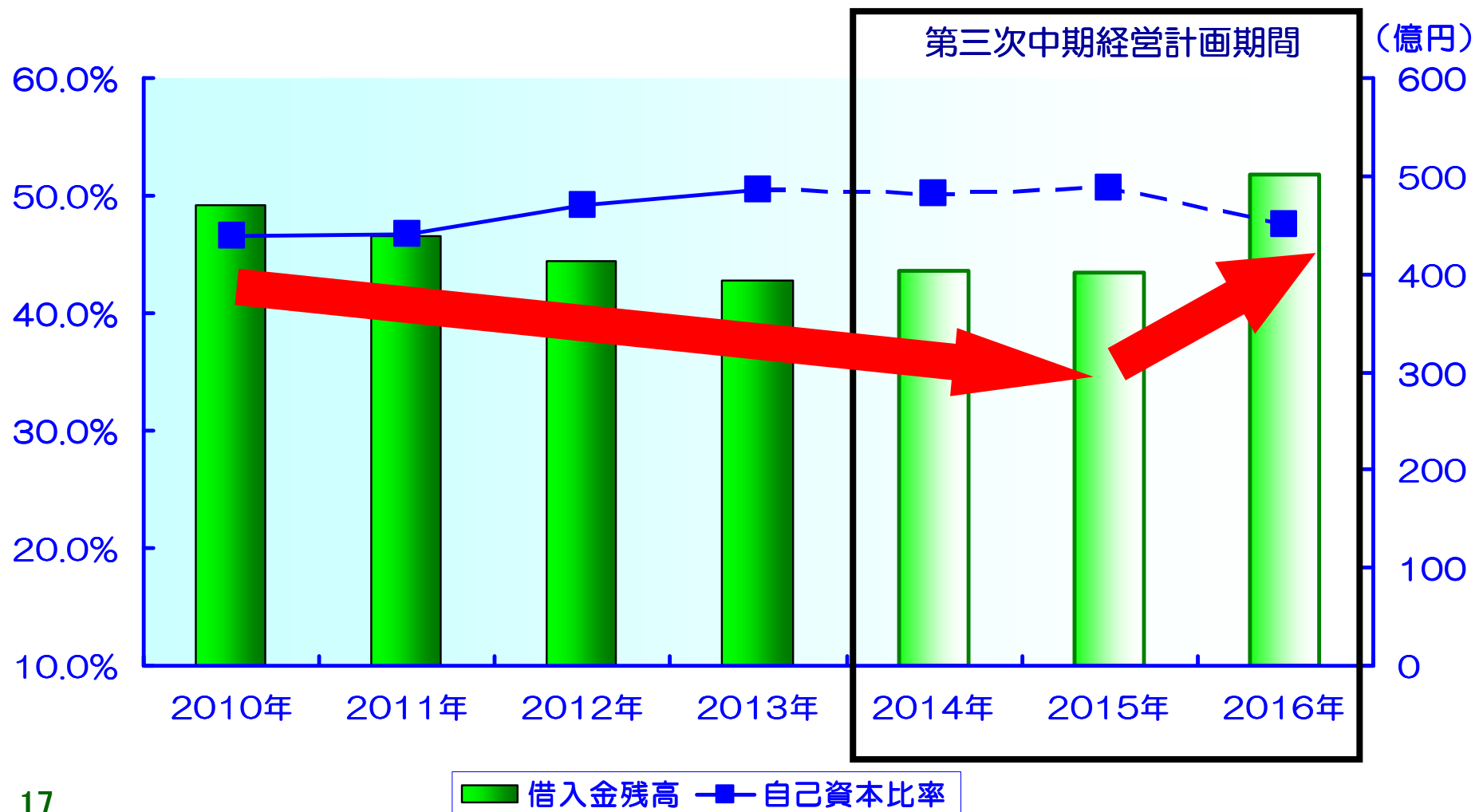
- 借入金増加 100億円
- 減価償却費 210億円
- 純利益

資産	負債
〔内 固定資産〕 900	〔内 借入金〕 500
	700
	純資産
	650
1,350	1,350



## 7. 借入金残高の推移

着実に借入金を削減し財務体質増強、  
積極投資に転ずるも健全水準



## 参考資料

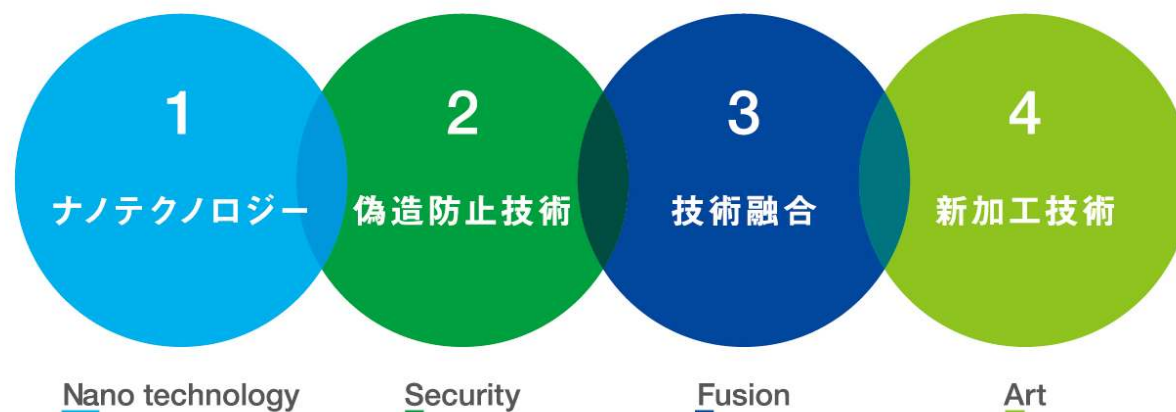
設立10周年の節目に向けて  
変革への挑戦、そして未来へ



# NaSFA

『(1)新商品の開発、(2)新規分野への進出』

## NaSFA



1. ナノテクノロジーから広がる新たな可能性 — 先端技術と当社技術での進化 —

2. 偽造防止技術によるグローバル展開 — 当社固有技術の深化によるグローバル展開 —

3. 技術融合による新市場の創造 — 当社技術の融合による新たな展開 —

4. 新規加工技術による挑戦 — 新規加工技術による新たな提案 —

# NaSFA①

## 『 1. ナノテクノロジーから広がる新たな可能性 』

### 【フィブリック（リチウムイオン二次電池用セパレータ）】

- 其 リチウムイオン二次電池用セパレータ（絶縁体）の開発に成功
- 其 ユーザー数社を対象に試作品を提供中
- 其 テスト生産・販売用のマシンが2014年4月に完成予定
  - 投資額：約10億円
  - 生産能力：400万m<sup>2</sup>/年
- 其 既存のフィルム素材に対して価格優位性あり
- 其 既存の不織布系セパレータと比べ、同容積での蓄電量アップが可能  
(同蓄電量での薄物化が可能)



フィブリック 建屋建設

## 『 2. 偽造防止技術によるグローバル展開 』

### 【黒透かし技術の開発】

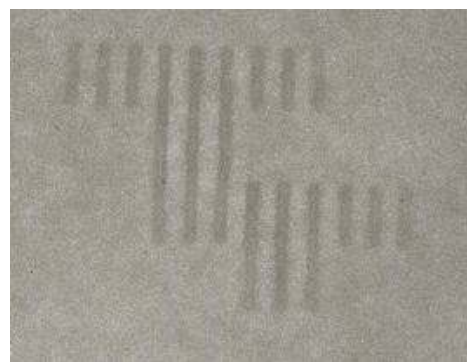
#### ■ 黒透かし規制の緩和に対応した技術開発

- 2013年3月 規制緩和（民間における製造の可能性の広がり）
- 2013年5月 「TTマーク」の抄造許可取得
- 2013年6月 人物像の抄造許可取得

#### ■ 産学連携での技術共同開発を目指す

#### ■ ターゲット用途：

- 国内セキュリティー用紙
- 海外パスポート用紙



TTマーク



人物像

## 『 3. 技術融合による新市場の創造 』

### 【技術融合型ファンシーペーパー〔D' CRAFT〕の上市(2013/9/17)】

- 其 産業素材事業Gの生産力と特殊素材事業Gの技術力を融合した製品
- 其 クラフト紙をベースに、色・風合い・パターンを付与
- 其 ターゲット用途：
  - 包装紙
  - 手提げ袋
  - 文具
- 其 目標売上高：10億円



紙わざ大賞入賞作品展での展示

## 『 4. 新規加工技術による挑戦 』

### 【増設するコーターヘッドの活用】

- 従来とは異なる塗工方法により新たな塗工紙の製造を可能とするコーターヘッドを増設
- 2013年12月に設置完了、2014年度中の新製品上市を目指す
- 投資額：約25億円
- メリットの追求：
  - ①新商品の開発および新分野への進出
  - ②品質の向上：塗工量の正確性向上  
膜厚の均一性向上  
塗工ムラの抑制
  - ③コストの削減：塗工量削減



C8加工機

## 売電事業への進出

### 『 (2) 新規分野への進出 』

- 赤松水力発電所を更新し、FIT（再生可能エネルギー固定価格買取制度）を利用した売電事業に進出する
  - 2013年12月 更新工事着工
  - 2015年 2月 更新工事完了、売電開始
- 投資額：約15億円
- 目標売上高：12億円



赤松水力発電所



# リニア中央新幹線事業に関連した社有林の有効活用

## 『 (2) 新規分野への進出 』

- 其 リニア中央新幹線が当社社有林地下部を通過するため、当社社有林内の2箇所からトンネルを堀削予定
- 其 当社への影響：
  - ①工事用地の協力等による賃貸収入
  - ②グループ会社である(株)東海フォレストによる工事参加
  - ③工事関連施設を有効活用した観光事業の強化および新規事業の検討
- 其 今後の課題：
  - ・ユネスコエコパーク認定を目指す
  - 南アルプスの環境保護・自然との共生



## 海外での商品開発

### 『 (3) 海外展開 』

#### 【中日特種紙廠股份有限公司】

- 其 高速製袋機対応ティーバッグ用紙の生産体制構築
- 其 技術開発員の派遣によるコスト競争力の強化（エネルギーコストの改善）
- 其 ユーザー情報の共有化による営業競争力の強化（薄物機能紙・ファンシー）

#### 【正隆股份有限公司】

- 其 食品用剥離紙の技術提供
- 其 食品および工業用工程紙の更なる共同開発
- 其 大型機能紙の海外展開

#### 【福蓬萊有限公司】

- 其 トイレに流せる、簡易的・衛生的な紙猫砂の生産および日本国内販売の開始
- 其 アジア（タイ・マレーシア・台湾）および北米向け販売体制の構築

# 新ボイラーの建設とRPF事業の拡大

『(4)他社・他産業との部分提携、(5)基盤事業の構造改革』

## 【新ボイラーの建設】

- 其 島田工場にバイオマスボイラーを建設
- 其 蒸発量100 t/h、発電容量22,700 kW
- 其 背景：購入電力価格の上昇

安定供給

## 【RPF事業の拡大】

- 其 RPF製造企業との提携
- 其 背景：
  - ・当社島田工場での新ボイラー稼働後のRPF使用量増加
  - ・(株)レックスが有するローコスト製造技術の提供によるシナジー効果

本資料に掲載しております当社の計画および施策などは発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいております。様々なリスクおよび不確定要素により、実際の業績と異なる可能性がございますことを予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。